

俳句は詩である

山口青邨

俳句は詩であるといふことである。俳句は格言でもないし、洒落の文句でもない、心に觸れて感動した、そのふるひを言葉に表現したものである。美しいと感じ、嬉しいと感じ、悲しいと感じ、醜いと感じたその律動を言葉に表現したものである。さういふ點は歌も詩もみな同じことである。ただ歌は歌の、詩は詩の、俳句は俳句の形態によつてゐるだけのことである。だから形態といふことも詩の構成といふ問題から言へば重要な要素である。

とにかく俳句はさういふいろいろな感情を俳句の形式で表現した詩である。叙情詩である。

それにもかかわらず、これを格言のやうなものに思つたり、その中に思想を求めたり、或は諷刺とか洒落を欲したりして、全く誤解してゐる人がある。かういふことは、これから俳句を作り、味はうとする人は直ちに拭ひ去らなければならぬ。

俳句は詩である、文學であるといふと、「それでは俳句を作るものは詩人であり、文學者です」と、いふ人もあるかも知れない、それはその通りである。俳人は詩人であり、文學者であるべきである。然しさういふ本格的詩人、文學者にならなくても、アマチュアとして充分立派な作品を作ること

出来るし、鑑賞も出来るので、俳句や歌は、さういう性質をもつてをり、さういふ要素から成立つてゐる。

さういふ點は小説や戯曲とは餘程異つてゐる、それだけに歌や俳句は特異な文學だと言ってもよいので、日本の獨特の文學だとして擧げる所以でもある。だから世界的にいふ文學といふカテゴリーの分類の中に、新に歌、俳句といふものが附け加へられなければならない。

とにかく俳句はさういふ種類の詩であるといふことを頭によく入れておいて出發しなければならぬ。

山口青邨著 『俳句入門』より抜粋